

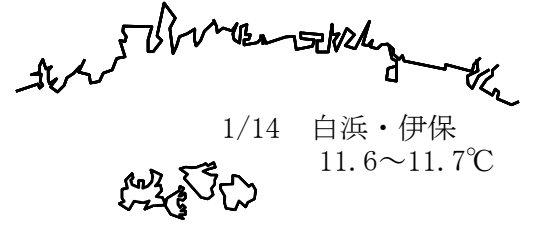
兵庫県のみ漁場環境情報 (西播海域 10号)

2020年 1月20日発行
 兵庫のみ研究所

地先漁場では窒素の低い状況が続いていることもあり、珪藻は散見される程度まで減少しています。一方、沖合漁場において肉眼視される数種の珪藻が、前回(1/7)調査同様に確認され、窒素は1~2 $\mu\text{g-at/L}$ 台の値となっています。

(栄養塩、珪藻) 地先漁場では小型のキートセロスやユーカンピアが中心となって確認されるが、色素が薄く細胞は崩れかけており活力は低いように所感される。沖合漁場ではコシノディスカスが海水1Lあたり50細胞前後、綿埃状に見えるキートセロス的一种といった珪藻が全般に目立って確認されており、窒素は一部地点を除き1~2 $\mu\text{g-at/L}$ 台で前回調査と比較し減少している。ユーカンピアの発生量は地先漁場で海水1mlあたり100細胞前後、沖合漁場では群体がわずかに見られる程度で大きな増殖や沖合への拡散は今のところ認められない。

水温図



		前回値	今回値	平年値	昨年値
西播地先	窒素	1.0	0.9	2.0	3.5
	リン	0.39	0.31	0.35	0.49
家島・坊勢	窒素	3.0	2.0	4.3	4.7
	リン	0.62	0.54	0.56	0.55

(1/7) (1/18)

栄養塩 (窒素) 図

2020年 1月20日調査

